

D—16 山口県学童の体位と家庭生活に関する調査研究（第1報）

山口大 森田 倭文

1. 山口県の新生児の身長、体重は、全国平均に比べて遜色がないが、学童の体位は全国平均を下回っているといわれ、県当局は、妊産婦、乳幼児の養護、食生活の改善、学校給食の充実普及に努めている。私は、育児学、家庭経営の立場から、県下学童の体位に、家庭生活がどのように影響しているかを究明したいと考え、本調査を試みた。

2. 県下各地区より27小学校を抽出し、今年4月1年入学児童の家庭（1,393名）に、調査用紙により、出生時の身長、体重、入学後の身長、体重、乳児期の栄養方法、離乳後の栄養強化、食物の好悪、それに対する父母のしつけ、食物費中の穀類費と蛋白食費の割合、その他について回答を求めた。また、二つの学校については面接により補充調査をした。

3. 対象児童の出生時の身長、体重平均は、昭和35年の全国平均に比べ、身長はわずかに足りないが、体重は少しよい。27校を1年生家庭の蛋白食費率の順にならべて折線グラフを描き、各校1年生の平均身長、体重のグラフをならべて見ると、多少のくい違いはあるが、全体的には同様の傾向があらわれる。これは6年間の蛋白食の影響が子供の成長の上にはっきり出ていることを示すものと考えられる。